

真のエリート教育 後編

新年おめでとうございます。志雲会の皆様も恙無く皇紀2677年（平成29年）の佳き年をお迎えになったことと思います。

今年は日本が、白人国家が「覇を唱えアジアを席捲する世界」であった荒海に遅れをとりながらも「肚」を括（くく）って舟を漕ぎだしてから149年、来年は150年を迎える。また300人程度の西郷軍が数万人の官軍により城山を包囲され、激しい雨の中の激戦で血の雨が降ってから140年経つ。結果日本から西郷南洲という世界でも稀な偉大な思想や精神も血の雨と共に流れ去った淋しさを感じる。

明治維新後、西郷・勝海舟・山岡鉄舟等が、この様な世の中を作る為に維新を戦ったのではないと嘆き、給料の半分は職を失い困窮する旧武士に配ったとの逸話を聞く時、欧米の物質文明の猿真似が如何に美しい日本精神（武士道精神）を毒し衰退させたかが推察される。御三方達にとっては不満だったとはいえ、明治維新は近代日本の夜明けとして日本が自力歩行の覚悟を決め、己の国の運命を己自身で切り開いた時代であった。

現在、世界の先進国は衰退に向かいつつあるが、日本も周囲を覇権国家に囲まれ、海で守られていた国家が逆に海を守らねば危険な状態にあるのは維新時代と似ている。それは敗戦から今日まで、日本は自国の運命を他国に委ねるような憲法に甘んじ、自己決定という国家の本質を行使する事を遠慮して来た結果、今の危機的状況を自ら招いたのではないだろうか？

今こそ日本は国家としての覚悟を決め、行動する節目を迎えている。今自らの尊厳を取り戻し、自信と覚悟をもって、自らの存在を決定すべきである。戦後日本は米国によって民族の尊厳を徹底的に潰された。しかも国際法違反を犯してまで実施された。

日本人には大東亜戦争（左派系は第二次世界大戦）は民主主義対ファシズムの戦争だったと宣伝し、日本国民に罪悪感・劣等感を植えつけた。実際は民主主義国家対民主主義国家の戦争であった。しかし戦時中はアメリカもイギリスも日本もドイツのヒトラーと同様に、戦争に熱狂した国民の世論によって独裁政治が認められ、新聞も軍国主義を指示したのである。ファシズムとは国家の

上に宗教やイデオロギーがある体制である。現在の中国・北朝鮮やイスラム国等である。決して日本はファシズム国家ではなかった。

日本は大正14年には普通選挙法を可決した。アジアでは最初。イギリスより7年遅れただけであり、昭和11年～12年にかけて大躍進した民政党の斉藤隆夫は国会で反軍・反戦の演説をする程、日本は民主主義国家であったのである。実態は君主民本制の民主主義であり、五か条の御誓文や教育に関する勅語を読んでも、民主国家であることが明白であろう。

政党名	選挙人資格	有権者数	全人口に対する割合	資格変更後最初の選挙
明治22年	25歳以上の男子 直接国税15円以上	約45万人	1.1%	第1回衆院選
明治33年	25歳以上の男子 直接国税10円以上	約98万人	2.2%	第7回衆院選
大正8年	25歳以上男子 直接国税3円以上	約307万人	5.5%	第14回衆院選
大正14年	25歳以上の男子 (納税要件は廃止)	約1,240万人	20.0%	第16回衆院選
昭和20年	20歳以上の日本国民 (婦人参政権を認める)	約3,680万人	48.7%	第22回衆院選

日本の選挙人資格推移

では世界一の民主国家を標榜する米国の民主主義とは、素晴らしく理想的なものなのか？日本人は米国から戦後与えられた民主主義が如何なるものかを学び、嘗ての美しい国家、美しい日本人に戻る為の道を模索する必要がある。民主主義には、どの国にも煽動する指導者と「熱狂」する国民という構図が見られる。そして熱狂した国民によって脹（ふく）れあがった世論こそが正義となり、必然的にマスコミが第一の権力となり、司法さえも、世論を横目に見て判決を下す欠点というか、恐怖も存在する。行政等すべてがポピュリズムにながされる
恐さもある。

民主主義の代表たるワイマール憲法は「主権在民」・「三権分立」・「議会制民主主義」をうたった画期的なものだが、この『主権在民』の民主主義がヒトラーを生んだのだ。平和憲法はこのワイマール憲法の丸写しと言われている。

注) ワイマール憲法

第1次大戦で敗北しドイツ帝政が崩壊した後、ワイマールの国民議会で制定さ

れた。直接選挙による大統領の強大な権限、直接民主制の大幅な採用、社会的
基本権の保障、所有権の制限などが特色。きわめて民主的な憲法であったが、
比例代表制採用の結果、小党分立に陥り、1930年代初頭に大統領の緊急命令権
が濫用され、ヒトラーの政権掌握後 1933 年に実質的に廃止された。

この様に民主主義や主権在民は平和を保障するものではない。民主国家で戦
争を起こす『主役』は大抵国民の場合が多い。近い例では、イラク戦争を支持
したアメリカ人は開戦時 76%、2年後でも 39%である。「国民の総意」と
は「この程度のもの」なのだ。この程度のものに国家の運命を託すことには、
私は疑義を抱かざるを得ない。

ここで私達が学ぶことは、主権在民には「**国民が成熟した冷静な、大局的な
判断をすることが出来る**」という大前提を必要とするという事である、国民投
票という政治手法が如何に危険なものか、理解出来るはずである。

美しい国日本、尊厳ある日本人を取り戻す為には、主権在民という自由・平
等・権利等に重きを置く主義を越えた君主民本教育をしなければ、美しい日本
は取り戻せない。その為には日本伝統の武士道精神を持つエリートを多く育て
ることしかない。米国も日本弱体化で最初にエリートを育てる学制（旧制中
学及び高校）を潰したのは敵ながら慧眼であった。彼らの思惑通り、現在、真
のエリートが日本からいなくなり国家は弱体化している。東大出の偏差値エリ
ートの官僚は居るが、国の為には役に立たない。

嘗て、大東亜戦争の帰趨（きすう）が見えてきた時、米国の世論調査で「日
本という国は存在する限り、悪を為すから国家を壊滅したうえで、民族を奴隷
にすべしという考え」を国民の三分の一が支持したという結果が出ている。

紀元前二世紀にはローマ軍が宿敵カルタゴを破り、全てを壊し、廢墟を鋤
（すき）でならし、不毛の地とする為、一面に塩をまき、老若男女は全て奴隷
として売り飛ばしカルタゴは地上から消滅した。この史実と同じ事を 2000
年以上経った米国民の三分の一が日本に対し同じことを考えていたのだ。

国民は決して民主主義・主権在民の制度では、賢くはなっていなかった。し
かし米国政府に居たエリート群が、この国民的ヒステリーは無視した。我々は
ここで次のことを理解しなければならない。

国民が国をリードすることは、主権在民制度ではあり得ない。いかなる国でも永遠に不可能だということを！！ 国民はこの制度では永遠に成熟はしないし、放っておくと民主主義・主権在民が国を、地球をも潰す恐れがある。これを防ぐ為にも、日本にはこれから真のエリートを一人でも多く育てることが、日本を美しい国に戻し、民意という暴走の危険を原理的にはらむ民主主義を抑制する必要がある。真のエリートとは金銭には何の役にも立たない文学・哲学・歴史・美術・神学等の教養を身につけ、それを背景とした圧倒的な大局観や総合判断力を持つこと。次に最も大切なことだが「いざ」となれば、**国家・国民の為に喜んで一命を捧げる気概と勇気を持つ武士道精神**を身につけていること。この二つを併せ持つ人物を一人でも多く育てる教育が急がれる。また我々も一人一人がこのエリートに近づく学びと努力を「その人に成る」の気概をもって生きることだ。

少林寺拳法開祖の「人、人、人、全ては人の質にある」との格言の重みを感じる昨今である。本年、まずは日本人がそろそろ戦後の左傾を脱して、自国の歴史を公平に見る年となるよう祈りたい。合掌。

平成29年1月27日

志雲会塾長 有馬正能